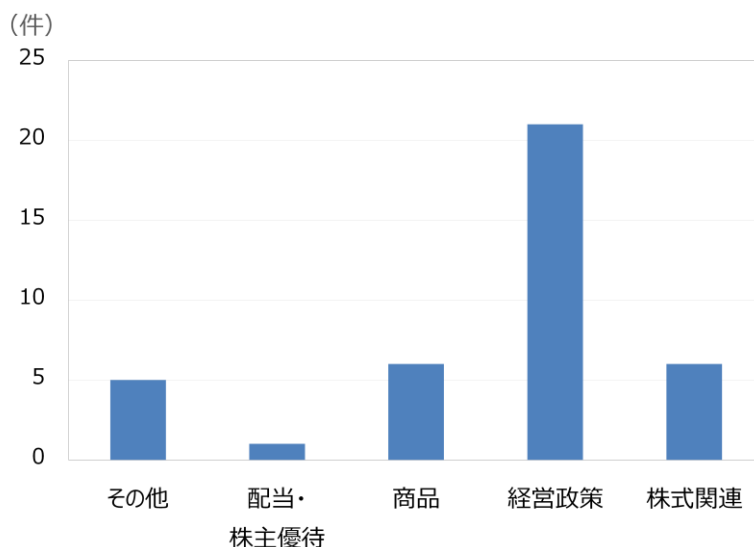


事前のご質問に対するご説明およびご回答

❖ ご質問およびご意見の内訳



事前にお寄せいただいたご質問・ご意見は、合計42件でございました。

内容別に分けさせていただきましたのが、こちらのグラフでございます。

それでは、関心の高かったご質問から2件取り上げさせていただきます。ご回答、ご説明申し上げます。

事前のご質問に対するご説明およびご回答

❖ 経営政策

Q 新型コロナウイルス感染症が当社に及ぼした影響
はどれくらいなのか？
今期への影響はどの程度になる見込みなのか？
業績予想は、いつ発表するのか？

2

それではまず「経営政策」から、

新型コロナウイルス感染症が当社に及ぼした影響はどれくらいなのか？

今期への影響はどの程度になる見込みなのか？

業績予想は、いつ発表するのか？

というご質問につきまして、ご回答いたします。

新型コロナウイルス感染症の当期4Qへの影響について

■ オートモーティブ分野

売上収益△38億円、営業利益△15億円

アフターマーケット事業は国内除き販売店閉鎖影響で苦戦。
OEM事業も、全世界レベルでの工場閉鎖・自動車販売の
低迷により売上が減少

■ パブリックサービス分野

売上収益△9億円、営業利益△3億円

無線システムは概ね順調であったが、マレーシア工場閉鎖に
よる影響発生。JKPIはほぼ想定どおりに推移。
ヘルスケア領域は病院向け販売が減少

3

新型コロナウイルス感染症が当第4四半期の連結業績へ与えた影響について、ご説明いたします。

オートモーティブ分野は、売上収益には38億円、営業利益には15億円の影響がありました。

パブリックサービス分野は、売上収益には9億円、営業利益には3億円の影響がありました。

新型コロナウイルス感染症の当期4Qへの影響について

■ メディアサービス分野

売上収益△13億円、営業利益△12億円（減損△5億円含む）

メディア事業は映像デバイス事業等BtoB市場への影響は軽微であったが、BtoC市場で販売が減少。
エンタテインメント事業は比較的好調

■ その他分野

DXビジネスのテレマティクスソリューション販売は好調維持

4

メディアサービス分野は、売上収益では13億円、営業利益では、減損計上した5億円を含めて、12億円の影響がありました。

その他分野に含まれるDXビジネスのテレマティクスソリューションの販売は、好調を維持しました。

新型コロナウイルス感染症の今期1Qの影響と対応について

■ 2021年3月期1Qの影響

- ▶ オートモーティブ分野では、海外市場では5月に入り自動車メーカーの生産再開が許可され始め、徐々に正常に戻りつつあるが、当面は悪化影響継続見込み
- ▶ パブリックサービス分野では、無線システムはマレーシア工場の閉鎖影響が発生しているが、4月末から生産再開し挽回中。
JKPIは、国内緊急事態宣言の影響で前年同期より悪化見込み

5

続きまして、今期第1四半期の連結業績に与える影響についてご説明いたします。

オートモーティブ分野では、海外市場では5月に入り自動車メーカーの生産再開が許可され始め、徐々に正常に戻りつつありますが、当面は悪化影響が継続する見込みです。

パブリックサービス分野では、無線システム事業はマレーシア工場の閉鎖影響が発生していましたが、4月末から生産再開し、現在はほぼ本格稼働をしています。

業務用システム事業は、子会社の株式会社JVCケンウッド・公共産業システムの販売が、国内の緊急事態宣言の影響で前年同期より悪化する見込みです。

新型コロナウイルス感染症の今期1Qの影響と対応について

■ 2021年3月期1Qの影響

- ▶ メディアサービス分野では、メディア事業は映像デバイスは好調なもの、BtoC市場で販売が引き続き減少。
エンタテインメント事業は、国内の緊急事態宣言の影響で前年同期より悪化見込み
- ▶ その他分野では、DXビジネスのテレマティクスソリューション販売は好調を維持

メディアサービス分野では、メディア事業は映像デバイスは好調を維持していますが、BtoC市場で販売が引き続き減少傾向にあります。

エンタテインメント事業は、国内の緊急事態宣言の影響で、前年同期より悪化する見込みです。

一方で、その他分野では、DXビジネス事業のテレマティクスソリューション関連の販売は好調を維持しています。

新型コロナウイルス感染症の今期1Qの影響と対応について

■ 当社の対応

- 新型コロナウイルス感染症の影響長期化を想定し、
「新型コロナウイルス感染症 緊急対策プロジェクト」を発足。
グループでのキャッシュアウト抑制と経費削減を強力に推進すると
ともに、With/Afterコロナを見据えて売上拡大に向けた事業収益構
造の改革を図る

これらを踏まえ、当社は感染症による影響の長期化を想定しグループ全体でのキャッシュアウト抑制と経費削減を強力に推進するために、「新型コロナウイルス感染症 緊急対策プロジェクト」を4月に立ち上げました。

Withコロナ、Afterコロナを見据え、売上拡大に向けた事業収益構造の改革も図ってまいります。

新型コロナウイルス感染症の今期1Qの影響と対応について

■ 今期の業績予想について

- 現時点では、新型コロナウイルス感染症の影響を合理的に算定することが困難であることから、2021年3月期連結業績予想は未定
- 今後、新型コロナウイルス感染症が今期の当社の連結業績に与える影響が算定可能となった段階で速やかに開示する

また、今期の業績予想につきましては、現時点で新型コロナウイルス感染症の影響を合理的に算定することが困難であることから今期の連結業績予想については未定としています。

今後、算定が可能となった段階で速やかに開示しますので、今しばらくお待ちくださいますよう、お願い申し上げます。

事前のご質問に対するご説明およびご回答

❖ 株価関連

Q 今年に入ってから、株価の下落が続いている。
この状況をどう考えているか？
「自社株買い」など、何か株価上昇策に
取り組まないのか？

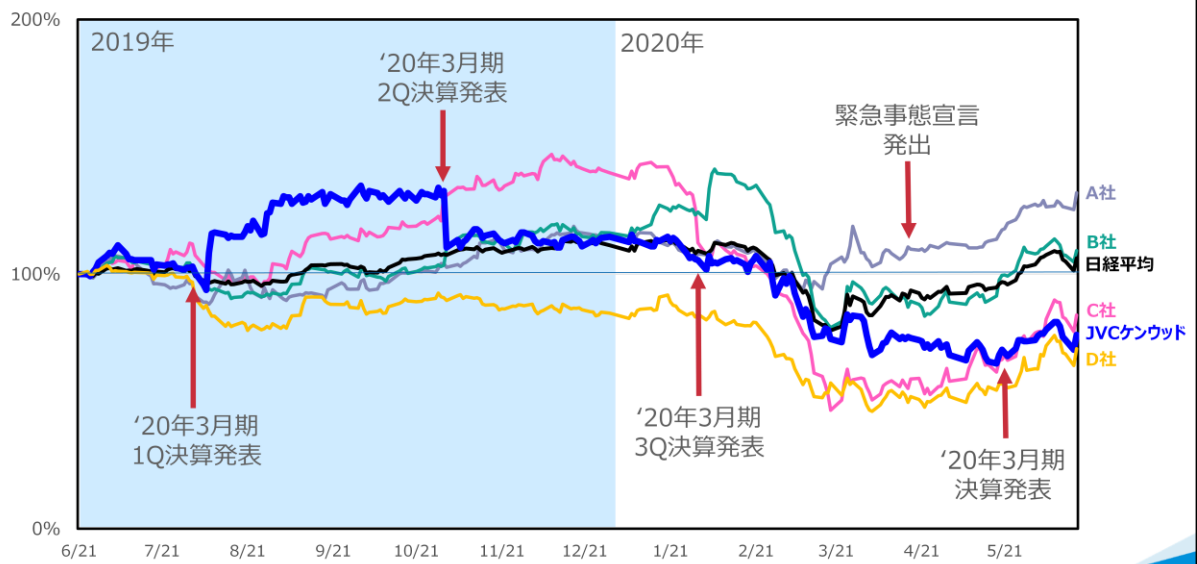
9

続きまして「株価関連」から、

今年に入ってから、株価の下落が続いている。
この状況をどう考えているか？
何か株価上昇策に取り組まないのか？

というご質問につきまして、ご回答いたします。

2019年6月21日を100%とした株価推移（'19.6.21～'20.6.09）



10

こちらは1年前の株価を100%とした株価指標の推移でございます。

紺色の線が当社、黒色の線が日経平均、紫色、緑色、桃色、黄色が業界他社の推移でございます。

当社株価は、本年1月末の第3四半期決算発表までは、日経平均と同様、もしくは上回る動きをしていましたが、それ以降は、全世界レベルでの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、下降線をたどっています。

そして、5月20日の2020年3月期通期決算発表以降は少しずつではありますが、上昇基調となっています。

新型コロナウイルス感染症の今期1Qの影響と対応について

■ 当社の対応

- 新型コロナウイルス感染症の影響長期化を想定し、
「新型コロナウイルス感染症 緊急対策プロジェクト」を発足。
グループでのキャッシュアウト抑制と経費削減を強力に推進するとともに、With/Afterコロナを見据えて売上拡大に向けた事業収益構造の改革を図る
- 当面の手元流動性と融資枠は確保しているものの、さらなる安定化に向けて融資枠を要請

当社といたしましては、先程もご説明いたしました

「新型コロナウイルス感染症 緊急対策プロジェクト」

に取り組み、Withコロナ、Afterコロナを見据え、売上拡大に向けた事業収益構造の改革を図り、その結果で株式市場からの信頼を勝ち取っていきたいと考えております。

事前のご質問に対するご説明およびご回答

■ 株価上昇策について

- 会社の持続的な発展が最大の株価向上策だと考えます。
そのために環境配慮、社会貢献、ガバナンス強化というESGの観点からも、ステークホルダーの皆さまの期待にお応えするべく、あらゆる企業活動の品質向上、競争力向上に向けて、全社員が一丸となって取り組んでまいります

会社の業績を向上させること、および持続的な発展が最大の株価向上策と考えており、そのために環境配慮、社会貢献、ガバナンス強化というESGの観点からも、ステークホルダーの皆さまの期待にお応えするよう、あらゆる企業活動の品質向上、そして競争力向上に向けて、全社員が一丸となって取り組んでまいります。

ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。